



開物成務

令和 6 年 10 月 3 日 (木) 発行

校長 津田 千由美

秋の学校風景

9月のとある日、2年生の教室から、「あれ、すずむしがいないている～♪」と、子どもたちの元気な歌声が響いてきました。その声に誘われ歩いていくと、廊下では「リーンリーン」と秋の虫たちが美しく鳴いていました。小学校ならではの光景です。

生活科の学習で、1年生と2年生が体育館裏手で秋の虫探しをしました。バッタをたくさん捕まえた1年生より一週間遅れて虫取りをした2年生は、たくさんのこおろぎを発見しました。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、季節は確実に進んでいるようです。

さて、先週金曜日には、第2回目の学校公開が開かれました。平日にもかかわらず多くの方々にお越しいただきました。午後からは、今年度初の試みである

「クリーンデー①」にも、130名以上の参加があり、子どもと一緒に汗を流していただきました。

普段手の届かない場所を掃除してくださったり、ほうきやぞうきんの使い方を指導してくださったり、あちらこちらですてきな関わりが見られました。

日頃の学校教育、PTA活動へご理解をいただき、心より感謝申し上げます。

運動会へ向けて「一致団結」

9月19日(木)、2学期最初の代表委員会が行われ、運動会テーマが決定しました。「一致団結～元気よく、思い出に残る運動会にしよう～」です。

この代表委員会の前に、まず各学級で「どんな運動会にしたいか」を話し合い、子どもたちの声を拾い上げました。その後、企画委員会の5・6年生が話し合い、決定したのがこのテーマです。

「一致団結」とは、共通の目的やゴールに向けて協力することです。思いが同じ方向に向いてないと成し遂げることはできません。そこで翌週には、学年団(低・中・高学年の2学年ずつ)で集会を開き、出場種目について確認したり、

さらに具体的な目標を設定したりしました。

今週は、音楽委員会の

子どもたちが各学級に

出向き、運動会の歌

「ゴーゴーゴー」の

振り付けの指導を行い

ました。ワンフレーズ

ずつ動きの手本をみせ、

同じようにまねをしてもらいました。委員会の

子どもたちの大きなジェスチャーと、わかりや

すいかけ声のおかげで、低学年の子どもたちも

あっという間に覚えてしまいました。

「ゴーゴーゴー」は、同じ節(リズム)の中に、

赤組と白組の異なるメロディーラインをもつ、

とても楽しい歌です。両組が重ねて歌う場面も

あるので、自然と競い合う気持ちが高まります。

運動会に向けて、それぞれの委員会にそれぞ

れの持ち場があります。あまり目立たない陰の

力ですが、運動会を成功させるためには大切な

活動です。こうした子どもたちの活動にも、ぜ

ひ目を向けていただけると嬉しいです。

運動会へ向けて「一致団結」の気持ちが少し

ずつ高まってきています。



◆第2回学校運営協議会を終えて◆

9月27日(金)、第2回学校運営協議会が行われました。この日は学校公開日でしたので、3時間目の授業を参観していただきました。以下は、委員の方々からいただいた主なご意見や感想です。

○ICT機器を活用することで、今何をしているのが焦点化され、子どもたちの集中力が高まっているように感じられた。

○保護者の参観態度やマナーが大変よく、子どもたちも適度な緊張感をもって授業に臨んでいた。

○廊下の掲示物が楽しく、工夫されていた。

△雨漏りやトイレの排水の問題など、建物の老朽化が目立った。

△保護者の参観がなくても、どの子も意欲的に授業に参加できるようにしていきたい。

今後も、保護者や地域の皆様と協働しながら、よりよい教育活動へ向けて改善を重ねてまいります。

秋の収穫「5年生米作り」

9月11日(水)は、子どもたち手作りの案山子とお別れの日でした。朝から気温が30度近くまで上がり、「秋」とは思えない陽気でしたが、5年生の子どもたちは稲刈りでたくさんの汗を流しました。

田植え時のか細かった稲が、分けつを繰り返し、約3か月の時を経て丈夫な稲に育ちました。米作りの師匠である鳥海先生が、日々水の管理や草取りなどしてくださったおかげです。鳥海先生が稲を刈るときの要領を教えてくださいましたが、実際にやってみると、なかなかうまくいきません。

「師匠のように、一気に切れない」「おずかしい」と言っていた子どもたちも、数をこなすうちにだんだんと手際が良くなり、終盤には「サクッ」と気持ちよく切れるようになってきました。

長袖長ズボンはあつという間に汗でびっしょり。それでも、子どもたちの表情は達成感で溢れていました。

5年生は、この後も米作りの総合の学習が続きます。子どもたちの興味関心がどのように広がり、どのように収束していくのか楽しみです。



防災学習「4年生」

9月20日(金)、4年生が社会科の学習で「自然災害にそなえるまちづくり」について学びました。開成町環境防災課の方にお越しいただき、講話と避難テントの設営体験をしました。

災害時には、開成小学校の体育館が避難所になります。体育館のピロティには防災倉庫があり、食料品や飲料水、毛布などが備蓄されています。普段、倉庫は施錠されているため、中を見ることはできませんが、この日は特別に見ることができました。

想定通り、子どもたちの関心はテントの設営。初めての経験でしたが、講師の方の説明を聞き、友達と協力しながら自分たちで設営することができました。災害時には、「自助・共助・公助」の精神が大切であるという言葉が心に残りました。災害はいつやってくるかわかりません。この日の学びは、命を守ることに直結することでしょう。



わたしのひとりごと

よちよち歩きのーオのお孫ちゃん、お兄ちゃんを追っかけては転び、ドアにぶつかっては転び…その都度大泣きしています。でも、バアバは泣き止ませるコツを知っています。

「痛かった、痛かった。イタイイタイのジイジのところに飛んでいけ！」

ぎゅっと抱きしめながら、言うのです。すると、さっきのパニックはウソのように、すぐに泣き止みます。

これを小学生に置き換えるとうなるでしょう。

開成小学校の保健室の先生の対応は、神業です。

怒りや不安などのネガティブな感情を抱えて保健室に来室する子どもたち…共通言語は、「ムカつく」「うざい」です。こういうときは、決して無理に話を聴きだそうとはしません。程よい距離感を保ちながら、「あなたのこと、心配しているよ」というオーラを醸し出しています。

しばらくすると、子どもは、なぜイラついているのか、何が嫌だったのかをぽつりぽつりと語り出します。保健室の先生は、最後までじっくり聴き、

「そうか、うが嫌だったんだね」

「そうか、朝から何も食べてないから、それもあってイラついちゃったんだね」

と。その子の気持ちをきちんとした言葉に言い換えてくれます。

「ムカつく」「うざい」としか発せられなかった気持ちが、こうして整理され、受け止めてもらった安心感に変わります。さっきまであんなに目が吊り上がっていた子どもも、潮が引いたように穏やかな表情を取り戻し、教室に戻っていきます。物事が解決されなくても、です。

子どもが挫折や失敗を乗り越えられるように育つには、つらい体験を減らすことではありません。挫折や失敗をしたときに生じるネガティブな感情を受け止めてもらえたという安心感が、子どもの心を育てるのだと思います。

あなたのお子さんは、家で辛いことや嫌だったことを

伝えられていますか。秋の夜長、じっくりと子どもの声に

耳を傾けてみてはいかがでしょうか。親の感情はひとまず脇に置いて…。

